

一般社団法人 aichikara

2020 年度事業計画書

1. はじめに

2020 年 3 月 11 日に、東日本大震災発生から丸 9 年を迎えます。そして、2020 年は震災から、団体設立から「10 年」の節目に向けて動き出す年になります。

aichikara にとって 2020 年は、今後の方向性を考えるうえで大きな転換期となります。

今年度の事業は、これまでの事業を大きく見直し、「選択と集中」のもと、以下の通りメリハリをつけて展開していきます。

リフレッシュキャンプは、東京五輪開催による混乱を避けるため、夏は開催せず、冬のみの開催とします。なお、被災地の現状の変化やキャンプに参加する子どものバッググランドの変化、キャンプを支えるスタッフの変化を踏まえ、今回のキャンプをもって、2011 年から継続してきた形態での開催は一旦休止することにします。

一方、これまでの経験で培ったノウハウや繋がりを最大限生かした教育プログラムを提供すべく「東北スタディーツアー」を積極的に推進します。aichikara は、団体立ち上げ当初「ボラバス」を幾度も運行し、東北へ足を運びました。「自分たちに何ができるのか」それを考える中で「キャンプ事業」が生まれたとの背景があります。今年度は、aichikara の原点に立ち返る事業(スタッフ)を通じて、これから団体の方向性を模索していきます。

最後に、10 周年事業(仮称)の実施に向けた準備に力を入れます。2016 年に実施した「5 年会」を踏まえ、aichikara らしさを前面に押し出した企画を検討、準備していきます。

aichikara がこれまで培い、育んできたこと『数多くの支えのもと、学生、社会人が立場を問わず相互に学びあい、高めあい、磨きあってきたこと』は、“aichikara の文化”であり、確かな強みです。これからも aichikara は、変化し続ける社会の現況をつかむとともに、仲間一人ひとりの思いを共有し「(私たちが)やりたいこと」「(私たちに)できること」「(私たちへ)求められていること」を考えていくことを大切にしていきます。

以上のことと、aichikara を創り上げてきた仲間とともに改めて共有し、2020 年度の事業を進めています。

新型コロナウィルス感染症拡大を受け、5 月 30 日に開催した当法人社員総会において、本年度の事業実施に当たっては新型コロナウィルスの状況を踏まえ、柔軟に対応していくことが承認された。したがって、下記事業計画は状況によって変更となることを申し添える。

2. 事業推進に当たり大切にすること

1. 粘り強く、自らのテーマ、チームのテーマを探求すること
2. 日々の生活圏から飛び出し、新たな人や社会と接点を持つことを通して知る・学ぶこと
3. 社会課題に対して「挑戦したい！」という意志を持った学生をサポートすること

3. 事業部門 事業計画 ※予算額は概算

(1)重点事項

- 1) 子どもキャンプ 2020－2021(仮称)の開催
- 2) 東北スタディーツアーの積極的実施
- 3) 教育機関との連携事業の推進〔委託事業〕

(2)各種事業

1) キッズチャレンジサポート(重点事業) 予算：460万円

子どもキャンプ 2020－2021(仮称)【団体設立10年事業に位置付ける】

〔担当：佐藤、中村(咲)〕

目的：自然体験活動や共同生活を通じて、子どもたちの生きぬく力を育む。

開催期日：**2021年度事業に変更する。**

会場：岐阜県中津川市加子母(ふれあいのやかた かしも)

参加対象：被災地(福島県、岡山県等)、東海圏域の小・中学生 50名

2) ユースチャレンジサポート 予算：20万円

スキルアップ助成事業(企画予算：20万円)〔担当：佐藤〕

目的：資格取得等自己研さんの機会を支援し、スタッフの成長に繋げる。

対象：助成要件に該当する当団体の活動に携わる学生、社会人

3)人と地域を守る活動 予算：503.3万円

①東北スタディーツアー(企画予算：470万円)〔担当：志治、石原〕

目的：震災から10年が経とうとする今、改めて発災当時の様子と復興の歩みから学びを得、風化防止に寄与するとともに、教訓を今後の地域づくりと参加者の活動につなげる。

開催時期：10回(5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、2月、3月①、②)

訪問場所：福島県、宮城県

参加対象：被災地に関心のある学生及び一般(経営者、教員等)

② 災害支援活動(企画予算：30万円)〔担当：中村(豊)、市川、大石〕

目 的：災害発生時、被災者・地支援を迅速に行い、被災地で暮らす人々の一刻も早い復旧・復興を目指す。

実施時期：災害発生に応じて実施

③ 地域イベントへの参加・参画(企画予算：1.5万円)〔担当：佐藤〕

目 的：地域で活動する多様な個人や団体との協働を通じ、知り、学ぶと共に、イベント等への参加・参画を通じて地域社会に貢献する。

実施時期：通年(依頼に応じ対応)

④ パンダふわふわの運営(企画予算：1.8万円)〔担当：梶岡〕

目 的：エアー遊具の運営を通じて事業資金を確保する。

実施時期：通年(依頼に応じ対応)

4) 教育機関との連携事業(重点事業)

① 学校法人至学館との業務委託契約に基づく事業〔委託事業〕〔担当：志治、石原〕
(企画予算：各企画予算の内数)

目 的：ボランティア活動の受け入れや教育プログラムの提供を通じ、至学館大学の教育理念である「人間力の形成」に寄与する。

※人間力は、「健康力、知的視力、社会力、自己形成力、当事者力」で構成される。

実施時期：通年

参加対象：至学館大学生

プログラム：
・「子どもキャンプ」(年間1回)でのボランティアスタッフの受け入れ
・スタディーツアーを通じた教育プログラムの提供
・授業または、各学科ゼミ活動におけるワークショップの実施 等

5) 研修事業 予算：110万円

ボランティアコーディネーション力3級検定 in あいち〔新規事業〕〔担当：佐藤〕

目的：ボランティアスタッフの受け入れに必要な知識や求められるスキルを学び、受け入れた学生の成長を後押しできる力(技術)を身につける。

開催時期：2020年9月(予定)

実施会場：至学館大学(愛知県大府市)

参加対象：理事、ボランティア活動に関心のある至学館大生
aichikara 学生・社会人スタッフ、一般

その他：日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)が提供する検定プログラムを共催形式として実施する。

6) 休眠預金事業 予算：190万円 〔新規事業〕〔担当：志治〕

目的：山村地域における若者の体験学習と継続的な交流の場を創出する。

協力団体：NPO法人かしもむら、NPO法人馬瀬川プロデュース

実施時期：2020年4月～2022年3月

4. 法人運営部門(管理部門) 事業計画

(1) 重点事項

1) 理事の役割の明確化および各事業・法人運営における担当理事の設置〔担当：佐藤〕
すべての理事が「法人の運営における意思決定、業務執行の権限を持つ」ことを認識し、責任をもった組織運営がなされるよう体制を強化する。特に、役職に応じて求められる役割を理解し、実行を徹底する。

2) 財政運営〔担当：吉村〕

- ・団体運営・事業推進を支える担い手(会員)を拡げるため、新会費制度を開始する。
- ・会員及び既存寄付者等に対し、当団体及び事業への理解を頂き、引き続き寄付を頂けるよう依頼する。
- ・採算性の確保のため事業内容、執行状況を十分チェックし、会員や支援者からいただいた会費、寄付金を適切に事業に充てるよう一層努める。

3) 一般社団法人 aichikara10年事業の実施に向けた体制の構築及び準備の開始

団体設立から10年目の節目に合わせ記念事業を開催するために、実施体制を構築し、準備を進める(開催時期は、2021年)。

(2)各種事業

- 1) 定時社員総会 2020年5月30日(土)名古屋市にて開催
- 2) 理事会 年6回開催(4月、7月、9月、11月、1月、3月)(予定)
- 3) 外部団体との連携
愛知県キャンプ協会〔担当：佐藤〕
 - ・理事会への出席/総会運営/あいちキャンプフェスタの準備、実施

5. 実施体制

- (1) 責任をもって事業を進めるため、理事を各事業の「担当理事等」として配置する。
- (2) 一部事業の詳細の検討・準備・実施にあたっては、「実行委員会方式」を採用する。

実行委員会

(1) 子どもキャンプ 2020-2021(仮称)

	氏名	役職・役割等
1	鈴木 健太	実行委員長
2	中村咲里亜	副実行委員長
3	佐藤 匠	事務局

(2) 10周年これからもよろしくね外部向け事業(仮称)

	氏名	役職・役割等
1	朝日 唯	実行委員長
2	吉村なる美	副実行委員長
3	楣岡 優子	事務局
4	志治 友規	事務局

(3) 10周年ありがとうこれからもよろしくね内部向け事業(仮称)

	氏名	役職・役割等
1	吉村 康範	実行委員長
2	保田 健志	副実行委員長
3	楣岡 拓己	事務局
4	梶野 真由	事務局

(4) 記念誌：10年の歩み(仮称)

	氏名	役職・役割等
1	吉田 朱里	実行委員長
2	國居 愛恵	副実行委員長
3	大石 義貴	事務局

※上記のメンバーを中心、学生・社会人スタッフが参画し、事業を推進する。なお、実行委員会の兼務も可能である。